

林業を安全でかっこいい仕事に 人口300人の村を変革の最前戦に

森林が県土面積のおよそ7割を占める奈良県。日本3大森林の一つに数えられ、最高級ブランド木材「吉野スギ」の産地として、国内林業の一角を担ってきた。職人の高齢化や若い担い手不足をはじめ、住宅建材の需要低下といった課題に直面する林業だが、この地では新たな萌芽が出てきている。林業の仕事のやり方だけではなく在り方にも変革を起こしてきたのが、同県吉野郡野迫川村にある有限会社津田林業。先行きの見えない環境の中でひたむきに道を拓いてきた同社が掲げる「かっこいい林業」とは？

世界遺産を擁する「秘境」

鬱蒼と茂る森をゆく。一步、また一步と、大地を踏みしめるたび、前日の雨を多く含んだ腐葉土の匂いが立ち上る。奈良県の南西部に位置する吉野郡野迫川村。国内最大の村である十津川村と、真言密教の聖地・高野山との間にあり、世界遺産である熊野参詣道小辺路こへちが通る同地域は、まさに「秘境」と呼ぶにふさわしい。「奈良県の県境である山々の稜線が見える、絶好のスポットがあるんですよ」。そう言って案内してくれたのは、同村で林業を営む有限会社津田林業の、津田一馬さん。眼前に広がる深い緑に覆われた山々を見渡しなが、「どうですか？」と

微笑む。紛うことなき絶景だ。

同行するのは、長らく林業に関わり、若き「フォレストワーカー」を多数育て上げてきた奈良県森林組合連合会の中井理仁さんと、津田林業の社員である南祐希さんと圭太さんの兄弟だ。公私ともに親交が深いという四人は、終始笑顔で語り合っていた。

「枯枯れがちよつと気になるなあ」。枯れ木を指差してふとこぼす祐希さんに、「ここ三、四年で多くなつた。一本出たらアウト。止まらないし防げない」と、中井さんが憂いの浮かんた表情で返す。山と長年向き合い、働いてきたフォレストワーカーにとって、山の健康状態をはかるのは大事な仕事の一部だ。

津田林業は一九八一年創業。一馬さん

は同社の三代目に当たる。「子どもの頃、工場は僕の遊び場でした。そんな思い出もあって、家業に対しては良いイメージしかありませんでしたね」。地元高校を卒業後は三重県の大学で林業を学んだ。奈良県内の林業会社勤務を経て、野迫川村にUターン。目指すのは森を守り、育む林業だ。

「祖父が植え、父が育て、私が伐る。林業はそうした長い時間をかけた営みなんです。後世へ継いでいくためにも、ただ伐るだけではなく、新たに木を育てる取り組みも行なっています」

林業のイメージを刷新

道案内の際、ぬかるんだ足下の注意を繰り返して伝えていた一馬さん。林業の仕事は、安心安全が第一だと強調する。

「怪我をしない、させないは、山の仕事の鉄則です。無理をすると必ず怪我をしてしまう。特に、間伐は一人で行うのではなく複数人で行う仕事。集中力が切れている状態で、隣に人がいるのに木を切ってしまうば事故故につながります。もう少し切りたいと思っても、自分の体力や山の天候と相談しながら引き際を考えるのも大事な仕事です」

一馬さんは先代である父を山の事故で亡くしている。

「山林現場の一作業員でしかないと思っ



一馬さんが案内してくれた絶景スポットからの眺望。
気候条件が重なれば雲海も見えとのこと



真っ直ぐ伸びる杉に囲まれると方向感覚を失いそうになる

祖父が植え、父が育て、私が伐る



ていた自分が、突然会社を経営する立場

になったんです。自分で務まるのか、当時は不安に押しつぶされそうでした」。日々経営に必要な知識や林業技術を学び、多くの人に支えられる中で、自分が継いだ津田林業は「野迫川村で山を守ってきた会社」なのだ気づいたそう。

「会社として地域で果たすべき役割がある。たとえば人口減少の問題。野迫川村の人口は、二〇二五年四月一日時点で三百二十四人。離島を除く全国自治体の中で最も人口が少ない村です。うちの会社が社員を一人採用して村に移住することになれば、それが三百分の一になる。都会の何十万分の一と比べると、その影

響は計り知れません」

事実、津田林業の社員の多くは移住者だ。一馬さんは林業への就業者を増やすためにも「3K（キツイ、汚い、危険）」のイメージを変えていきたいと話す。

「たとえば制服一つにしても、『どうせ泥だらけになるんだから何でもいいや』じゃなくて、こだわったイケてるデザインのものを使う。若い人たちに林業ってカッコいいなと思ってもらいたいんです。小さな積み重ねですけど、そうしたところから変わっていったらと思っていま

す」

故郷を離れ、兄弟で野迫川村へ



津田林業の制服は一人ひとりデザインが異なる。上が祐希さん用、下が圭太さん用



兵庫県加古川市から移住した兄の祐希さん（上）と圭太さん（下）

南祐希さんと圭太さんの兄弟は、地元の兵庫県加古川市から移住し、津田林業に就職した若い社員たち。最初に兄の祐希さんがこの地を訪れた。

「もともと動植物が大好きで、ここに来る前はキャンプ場の仕事をしていました。野迫川村を含めた近隣エリアで働いていて、動物の世話をしたり、林業のお手伝いをしたりと、当時からこの地域に関わっていたんです。津田林業と出会ったのは、ちょうど転職を考えていた時期でした」

地域の催事で出会った先代である一馬さんの父から「次が決まっていらないなら

うちにおいでよ」と声をかけられたという。

「正直『林業がしたい！』とか、『野迫川村で暮らしたい！』というような強い気持ちがあつたわけではないんです。流れに身を任せた結果こうなりました」

そう笑いながら話す祐希さんだが、仕事には使命感をもつて取り組み、地域行事にも積極的に参加している。

「村の人たちの存在が大きいです。若いこともあって色々期待してくれているし、それが心地良い。村の一員としてどのように活躍できるかを考えながら楽しんでいます」

そんな兄を頼って移住したのが弟の圭太さん。

「中学生の夏に野迫川村に遊びに来てから、ちよくちよく来るようになりました。高校生になってからは村の近くのホテルでバイトをしたり、津田林業のお仕事を手伝ったりして。地域の方たちにとっても可愛がつてもらいました。兄ちゃんは僕と違ってとても社交的で、大人で、そんな姿がカッコよくて憧れていたんです」

その後、野迫川村役場の臨時職員の募集に応募し就職した圭太さんは、同時期に行われていた林業就業支援講習にも参加。もともと兄のように林業に携わりたいと思っていた圭太さんは、そのまま津田林業へ転職し、今に至る。ちなみに、当時の講習で講師を務めたのが奈良県森林組合連合会の中井さんだ。公私ともに



津田林業はしいたけの栽培も手掛ける



右 一馬さんの祖父が建てた作業場は秘密基地のような遊び心ある空間。机には灰皿のほかチンチロコ。普段からここで憩う様子がうかがえる
左 作業場は子どもたちの遊び場にもなっているそう。「僕も昔はよく作業場で遊んでいました」と一馬さん

樹木の状態を確認する一馬さん。植えてから伐採するのに、およそ半世紀はかかるという



鬱蒼とした森林を整え、後世につなぐ大事な仕事。間伐によって木漏れ日が降るようになった土壌では、新芽が芽吹いていた



山の中にチェーンソーの音が轟く。大鋸屑を巻き上げながら唸る姿は圧巻



チェーンソーを担いで森に入っていく南兄弟



山に入って作業をする際は安全第一。ヘルメットはもちろん、作業靴は足場の悪い場所で作業する際の心強い味方

森の可能性を 拓く仕事を

仲の良い四人の縁はここから始まった。

仕事も暮らしも人間らしく

地域の人々と良好な関係を築き、仕事もプライベートも充実させてきた祐希さん。その秘訣を聞くと、「気をつけていたのは、自分の我を通しすぎないこと（笑）。そして地域文化を受け入れることですわね」と茶目つ気のある笑顔で応えた。明るく人懐っこい人柄に、村の人たちも警戒を解いたのだろうか。収穫した農作物を分けてくれたり、お酒の席に誘ってもらったりといった機会も増えていった。子どもが生まれてからは「この子は村の子どもだ」と地域全体で面倒を見てもらったそうだ。

一方、仕事では場数を踏んで技術を磨き、中井さんからは「そろそろ林業就業支援講習の講師をしてほしい」と言われるまでに成長した。

「津田林業では、木を植えるところから伐採まで、およそ林業と呼ばれる一連の仕事を全て担います。できるだけ高品質な状態で木を出荷できるように、日々取り組んでいますね」

中でもやりがいを感じるのは「道づくり」だという。

「山を整備するのに職人さんが入れるよう、重機を入れて道をつくっていくんです。その道が崩れることなく、誰一人怪我せずに安全に仕事が終えられときが一

りするのが現状だ。

「国や自治体は補助金や助成金を出し、そうした山々の整備に取り組もうとしています。ですが、まだまだ道半ばです。私たちは役場と連携し、民有林の所有者を特定したり、所有者に対して補助金や助成金を活用した整備について訴えかけるなどの取り組みも進めてきました」

国有林を対象とした林業は、林野庁から請け負う形で実施され、計画的で大規模な作業が多い。そのため安定的で盤石な収益構造を持つ。半面、どれだけ伐つても収益は変わらない。民有林を扱う林業は、販路などの工夫次第では大きな収益を望めるのが利点だ。

「野迫川村の森林の多くは民有林で、まだまだ活かしきれていない森林資源がたくさんある。村で林業を営む会社としては、地元で育った木を活かしていきたいのが本音です」

しかし、仮に民有林を開拓できたとして、次は市場競争という壁が立ち塞がる。国内の木材は、外国からの安価な輸入木材に価格競争で太刀打ちできていないのが実情。さらに、国内の木材需要が低下していることも追い打ちをかけている。

「木材の中でも、住宅建材として使用されるものは高価格で取引がされています。特に構造材（柱・梁）や内装材（床板、羽目板）においては、吉野スギをはじめとするブランド木材が好まれ、高品質・高付加価値の市場が存在します。ただ、日

番気持ちいいですね。数年経っても道が壊れずに残っていたら感動もひとしおです」

弟の圭太さんは「身体を鍛えられるのがいい」と話す。

「デスクワークばかりをしていると、生物として大事なものを失うような気がしています。人間としての野性を取り戻しながら、どんどん健康になっていくところに、とても充実感を覚えます」

今はがむしやりに働きたいと、熱い思いを語ってくれた。



困難な状況でも、希望は失わない

一馬さんは仕事のやり方やスタイルだけでなく、収益構造の見直しも進める。奈良県における森林率（県土に占める森林の割合）は約七五％で、森林資源は豊富にあるように思える。しかし、津田林業が仕事で扱える国有林はそのうちの約二〇％に過ぎない。八割近くは民有林で、所有者が不明だったり、放置されていた

本の新築住宅着工は一九九〇年代のピークから右肩下がり。全体的に木材の需要が低下しています」

そうした状況下だからこそ、一馬さんは「希望」を語る。

「全国には、上流の伐採から下流の製品化までを一体化し、全てを地域内で完結することで、自立型の経済圏を構築している地域もあります。今は人手が少ないのでできることは限られています。体力や専門性のある仲間が増えさえすれば、できることがどんどん増えていく。そこに林業の希望がある」

若きフォレストワーカーを輩出

野迫川村を含む奈良県南部に限らず、全国各地の山では、林業に携わる人材の高齢化、若い担い手不足が課題となっている。そんな中、期待を寄せられているのが「林業就業支援講習」だ。奈良県では、奈良県森林組合連合会が担う。講師を務めるのは吉野センター長の中井さんだ。津田林業に就職した圭太さんをはじめ、若きフォレストワーカーを育成し、全国各地の林業の最前線へ送り出してきた。

「これまでに多くの若い林業就業希望者が集まり、毎回募集定員を上回る勢いで大盛況でした。奈良県の講習は、全国の中でもトップレベルの参加数を誇ります」

林業就業支援講習の様子

基礎知識の講習



林業の動向、山村の現状と活性化、木材需給や木材価格など、森林・林業を取り巻く状況について講義で学びます。

安全衛生講習



労働災害の現状や、林業における健康管理のほか、救命講習も受講します。資格講習では、林業に必要な「刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育」「伐木等の業務にかかる特別教育」などの資格を取得できます。

注意事項

- 1 この講習は、必ずしも就職を保証するものではありません。
- 2 現場の安全確保の観点から選考を行う場合があります。詳細は、講習実施機関にご相談ください。
- 3 食費や講習実施地域までの交通費等受講に関連して生じる経費は、自己負担となります。宿泊費は途中辞退された方には支給されません。
- 4 各コースの講習日数は、都道府県により異なります。

実地講習



「林業の基礎知識」「安全衛生講習」で学んだ知識を実際に現場で実践。刈払機及びチェーンソーの現場での操作や、苗木の植え付け、下刈り、除伐、枝打ち、間伐等の作業を実際に体験できる貴重な機会です。講師の指導のもと安全に行います。

施設見学



木材市場や製材工場など、林業・木材施設等の見学を行います。山の木がどのように販売され、製品になり流通しているのか、ご自身の目で見られる貴重な機会です。

就業相談



各地域の林業就業窓口担当者との就職相談を行うことができます。また、現役林業ワーカーの体験談を聞く機会もあります。

林業就業支援講習(厚生労働省委託事業)

全国森林組合連合会では、林業への就職を希望する方を対象に、全国各地で林業就業支援講習を随時開催しています。受講期間の異なる3つのコースがあり、講義、体験、資格講習、施設見学を通じて林業の基礎を学ぶことができます。受講は無料です。コースによっては、一泊あたり上限4,400円(税込)の宿泊費補助もあります。

受講料
無料



就業前に資格が取得できる

実践コース

実地講習＋資格取得

- ✓ 宿泊費の補助あり
- ✓ 業務で使える資格の取得

チェーンソーや刈払機などの資格が取得できます。

短い期間で充実の林業体験

体験コース

資格の取得はなし。

作業体験＋現場見学

- ✓ 宿泊費の補助あり
- ✓ 林業作業体験
- ✓ 施設見学
- ✓ 就業相談

理解が深まる林業就業相談会

1日コース

講義＋就業相談

- ✓ 林業の現状や仕事内容の説明
- ✓ 就業相談
- ✓ 生活相談

まずは林業への入り口から知りたい方も気軽に参加ください。

宿泊費補助

- 講習修了者には、受講中の宿泊費について一泊あたり4,400円(消費税込み)を上限に補助します。
- 補助となる日数は講習日数を限度とします。

講習内容

実践コース

01

林業の基礎知識

- 林業の動向
- 山村の現状と活性化
- 木材需給や木材価格

02

安全衛生講習

- 労働災害の現状と対策
- 林業における健康管理
- チームワークとコミュニケーションの重要性
- 普通救命講習

資格講習

- 刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育
 - 伐木等の業務にかかる特別教育
 - 小型車両系建設機械の運転の業務にかかる特別教育(3t未満)※
- ※小型車両系建設機械の資格講習は、実施しない場合もあります。

03

実地講習

- 「林業の基礎知識」「安全衛生講習」で学んだ知識の現場での活用
- 刈払機及びチェーンソーの現場での操作
- 植え付け、下刈り、除伐、枝打ち、間伐等の各種林内作業の実施

04

林業関係施設等見学

- 林業・木材施設等の見学

05

就業・生活相談

- 林業への就職相談や現場作業者への生活相談等

体験コース

01

林業の基礎知識

- 林業の動向
- 山村の現状と活性化
- 木材需給や木材価格

02

安全衛生講習

- 労働災害の現状と対策
- 林業における健康管理
- チームワークとコミュニケーションの重要性

03

実地講習

- ノコギリでの枝打ち、丸太切り体験
- 高性能林業機械等の見学
- その他各種林内作業の見学

04

林業関係施設等見学

- 林業・木材施設等の見学

05

就業・生活相談

- 林業への就職相談や現場作業者への生活相談等

受講生の声

参加のきっかけは 林業就業相談会



環境問題に興味があり、林業就業相談会に参加し、この講習を知り申し込みました。講習ではチェーンソーの使い方や刈払機の資格について学び、講師の方々は本当に丁寧に教えてくださり、受ける側も楽しいです。自然の中で仕事をすることは心地良く、やりがいを感じます。地球の環境に貢献ができる素晴らしい仕事と感じました。

自分に合った働き方



体は丈夫な方なので、外の仕事をしてみたいと思い、林業の就労相談の方に相談しました。その際に資格があれば良いとアドバイスを受け、このコースの存在を知り、参加することになりました。頭を使いながら体を動かす仕事が自分に合っていて、出来ないことが出来るようになることにやりがいを感じます。伐倒で思った方向に切れるように頑張りたいです。

自衛隊の経験を生かして



陸上自衛隊の災害派遣で風倒木の撤去を行った際に、山の整備の必要性を強く感じました。自衛隊を退職したタイミングで林業を試してみたいと思い、今回参加しました。講習では基礎的な知識と技術を教えていただき、実際に伐倒も経験できました。ここまで手厚くサポートしていただけたとは思っていませんでしたので、参加して良かったです。

林業に就業するまでの道のり

STEP 01

林業に関するボランティア活動

林業体験・林業講習会

各都道府県の林業労働力確保支援センター等が実施する林業就業支援講習(厚労省)など

STEP 02

就職活動

ハローワーク・林業労働力確保支援センター

STEP 03

森林組合、林業経営体などに就業

STEP 04

「緑の雇用」事業

林業の技術・技能を習得するための実務を就業先で研修「緑の雇用」事業(林野庁)

STEP 05

地域に定着して林業に従事

受講方法

裏表紙の講習実施機関にお問い合わせください。また、この講習に関する具体的な情報をホームページ「林業就業支援事業のご案内」にも掲載しています。

<https://ringyou.mhlw.go.jp/>

林業就業支援講習

検索



最新情報を配信中! 公式 SNS